

参議院議員

 民主党国際局長、ネクスト沖縄・北方対策大臣
 元財務副大臣

 ふじ た ゆき ひさ
 藤田 幸久


スマイル 茨城



元内閣官房副長官補柳澤協二氏が講演



7月29日に都市センターホテルにて元内閣官房副長官補柳澤協二氏を講師に迎え政経フォーラムを開催しました。冒頭の挨拶で東京後援会会長の西川康雄氏が、「私の父の出兵の時の写真に40人の若者が写っていますが、その40名のうち日本に帰国したのは私の父1人だけでした」という話をされ、戦争の悲惨さを確認するムードに包まれた中、柳澤先生の講演に入りました。

柳澤先生の話のポイントは以下の通りです。

1. 安倍総理が常に「国民の生命を守るための法案」と言っているが、その旨は法律にどこにも書いていない。法案には日米同盟の強化が目的として読み取れ、自衛隊が各国の軍隊並みの武器使用ができるようになる。そして平時からの米艦防護ができ、世界中どこにでも行けるといことが書かれている。
2. 安保法制によって、自衛隊は米艦防護ができるという点から、実質的参戦及び事態の拡大に繋がる。一発の弾が戦争に巻き込まれる恐れがある法案である。
3. 自衛隊員の安全リスクが拡大するのが必至。イラク派遣の時、自衛隊は一発の弾も撃たなかったが、派遣隊員の自殺は1万人を3ヶ月間派遣した中で29人に及んでいる。日本全体の自殺は年間2万5千人ということを考えると、10倍以上の確率となる。イラクではあくまでも人道支援であった。今回の戦場に自衛隊を派遣す

るとい法案では、犠牲者は更に増加する。

4. 存立危機事態における集団的自衛権というのがそもそも矛盾である。存立危機事態というのは自国の存立危機であり、自国の防衛は個別的自衛権で実行できるのである。集団的自衛権というのは、他国の防衛の話であり、集団的自衛権を行使して自国を守るといのが概念的矛盾なのである。

5. 「存立危機事態」という立法事実の不在。安倍政権は我が国の存立危機事態を想定する場合として、具体的事例でホルムズの機雷掃海の話を用いているが、イランの核開発協議がスタートし、米国とイランの関係は改善の兆しを見せている。誰がホルムズ海峡に機雷を捲くのか？もう一度、前提や安全環境の変化も含め、衆議院の審議からやり直さなければならない。

6. 日米同盟の強化がはたして防衛力強化に繋がるのか？アメリカは国益重視で動く国であり、日本の無人島のために血を流すつもりは毛頭ない。たとえ日本がアメリカのために血を流す覚悟をしても、アメリカは動かない可能性がある。米中関係を洞察し、国益で動く大国の論理を理解すれば、安保法制が日本の安全向上に繋がるかは疑問だらけであり、逆に戦争へのリスクが高まる法案になっているのではないかと。

7. 安保法制は自民党の圧倒的多数で可決するだろう。それで終わりではない。自衛隊が最初の「一発」を撃つまで時間はある。自衛隊の武力行使は「国会承認」が必要であり、この場合参議院は衆議院と同格であり、参議院で否決されれば承認は出せない。次期参議院選挙が与党にお灸をすえる選挙として考えてほしい。

以上の内容でした。講演を拝聴し、日米同盟以外に外交安全保障の戦略がない日本に大きな課題があることを再認識しました。

活動報告

8月6日 世界宗教者平和会議(WCRP)、核不拡散、軍縮円卓会議



核不拡散・軍縮国際議員連盟、平和首長会議共催の、核不拡散、軍縮円卓会議に出席しました。WCRP日本委員会の杉谷義純理事長に続きWCRP議員懇談会から自民党の逢沢一郎議員と民主党の私が冒頭に発言しました。私は対人地雷禁止のオタワ条約のプロセスの経験と、市民グループの連携を紹介した後、1950年に広島市の浜井市長が、元々「過ちは繰り返させませんから」となる予定であった碑文を、「過ちは繰り返させぬから」と変えて今の碑文があること、そしてその意味の重大さについて述べました。恨みのメッセージではなく人類全体の和解のメッセージであることを。

8月6日 世界宗教者平和会議(WCRP)、原爆投下70年シンポジウム



司会の庭野光祥さん

世界宗教者平和会議(WCRP)、世界連邦日本宗教委員会などの主催による原爆投下70年シンポジウム「二度と戦争を起こさない-核兵器廃絶をめざして-」に出席しました。田中恆清神社本庁総長、広島市松井一實市長に続いての久保田訓章広島東照宮宮司の被爆者体験は、70年前の地獄絵を再現するようなお話で、核兵器の残酷さが心に焼きつきました。その後のセッションでは、庭野光祥さんの司会で核戦争防止国際医師会議のガルカペンコ共同会長などが発言しました。



国会前で、戦争法制反対の座り込みを続ける多くの市民の皆さんの激励に駆けつけました。僧侶や家族連れの方々も！



水戸駅で、安保法案強行採決に反対する抗議活動を行いました。安倍政治に反対する世論の波が高まっています。



守谷市で素晴らしいミニ集会を開いて頂きました。安全保障法制や平和をつくる活動について話させていただきました。

藤田 幸久 議員 プロフィール

初の国際NGO出身国会議員。スマトラ・ハイチ地震援助など世界51カ国を訪問。

- ◆1950年 日立生まれ
- ◆日立市二葉幼稚園・会瀬小・茨城大学付属中・水戸一高・慶應大学文学部卒業
- ◆難民を助ける会と国際MRA協会理事
- ◆1996年～衆議院議員当選(2期、東京)
- ◆2003年～民主党国際局長
- ◆2007年～参議院議員当選(2期、茨城)
- ◆2008年～参議院拉致問題特別委員長
- ◆2009年～民主党国際局長
- ◆2010年～参議院財政金融委員長
- ◆2011年～財務副大臣
- ◆2013年～参議院財政金融委員長
- ◆現在～参議院国家基本政策委員長
民主党国際局長、ネクスト沖縄・北方対策副大臣
横浜国立大学非常勤講師

民主党からのお知らせ

★党員・サポーターを募集中！

党員・サポーター登録を受付中です。多くの皆様の登録をお待ちしております。

◆党員：党費 6,000円

◆サポーター：会費 2,000円

党員・サポーターの方は、民主党の代表選挙の投票ができます。

☆インターン生・ボランティア募集☆

政治家の活動や政治や経済の現場を藤田幸久と行動を共にしながら勉強するインターン生も受け入れています。ボランティアも募集中です。

国会見学と国政報告会のご案内

国会見学は数名から、国政報告会はご自宅でのミニ集会も大歓迎！

メールマガジン/Facebook/Twitterで情報発信中！

ホームページからそれぞれ確認できます。是非登録をお願いします！